

形成外科学

責任者・コーディネーター	形成外科学講座 柏 克彦 教授		
担当講座・学科(分野)	形成外科学講座		
担当教員	小林 誠一郎 教授、柏 克彦 教授、木村 裕明 講師、本多 孝之 助教、柏谷 元 助教、長尾 宗朝 助教		
対象学年	4	区分・時間数	講義 18 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

形成外科学（Plastic,Reconstructive and Aesthetic surgery）は、皮膚、皮下軟部組織、硬組織などに起因する先天性または後天性の、主として身体外表に現れた変形（組織欠損、過剰、位置異常、組織学的異常）などを 1. 機能的かつ 2. 形態的に修復し、患者の QOL 向上を目ざす治療外科学の一分野である。現在の医療水準に見合った、形成外科臨床に必要な基礎知識の習得を目標に講義する。

・一般目標（GIO）

1. 一般の臨床医が習得すべき形成外科学の基礎知識の習得と国家試験ガイドライン関連項目の習得を目指す。
2. 講義において提示する具体的症例を踏まえ、形成外科的診断・治療法を理解する。
3. 与えられた課題に対するグループ発表などを通じ、知識の整理を図る。

・到達目標（SBO）

1. 形成外科の目的から派生する対象疾患の範囲を理解する。
2. 先天異常に対する一般的基礎知識を理解する。
3. 顔面・四肢外傷の初期治療に関する基礎知識を習得する。
4. 外傷などの 2 次再建に関する基礎知識を習得する。
5. 皮膚縫合の方法と要点、Z 形成術の方法と効果を図示し説明できる。
6. 組織移植の基礎事項を理解し、植皮・皮弁の種類と特徴、生着過程を説明できる。
7. 創傷治癒過程を理解し説明できる。
8. 主な先天異常の原因と治療の概要を理解し、一般的 informed consent ができる。
9. 顔面骨折、軟部組織損傷の種類と要点を理解し、その診断ができる。
10. 熱傷の初期治療とその予後について説明できる。
11. 代表的皮膚悪性腫瘍の診断と治療法について説明できる。
12. 代表的母斑と皮膚良性腫瘍の鑑別診断ができる。

・ 講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
5/9	金	3	形成外科学講座	小林 誠一郎 教授	形成外科の目的、歴史的発展、対象疾患、先天異常の基礎知識
5/9	金	4	形成外科学講座	小林 誠一郎 教授	顔面・四肢外傷初期治療の原則
5/16	金	3	形成外科学講座	小林 誠一郎 教授	外傷などの2次再建
5/16	金	4	形成外科学講座	小林 誠一郎 教授	形成外科的診断・治療・基本手技
5/23	金	3	形成外科学講座	柏 克彦 教授	形成外科における組織移植
5/23	金	4	形成外科学講座	木村 裕明 講師	創傷治癒とケロイド
5/30	金	3	形成外科学講座	柏谷 元 助教	手足の機能と先天異常
5/30	金	4	形成外科学講座	長尾 宗朝 助教	皮膚腫瘍と母斑
6/6	金	3	形成外科学講座	木村 裕明 講師	顔面の骨折・軟部組織損傷
6/6	金	4	形成外科学講座	本多 孝之 助教	顎顔面の発生・発育と先天異常（唇顎口蓋裂、耳、体躯、外陰など）
6/13	金	3	形成外科学講座	柏 克彦 教授	熱傷・難治性創傷
6/13	金	4	形成外科学講座	本多 孝之 助教	重要事項のまとめ・小テスト

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	標準形成外科学 6 版	平林慎一、鈴木茂彦 編	医学書院	2011
参	形成外科 (新外科学大系 29 卷 A-D、追補 4 冊)	福田修、宮本義洋、谷野隆三郎、波利井清紀、今村正之	中山書店	1987
参	図説臨床形成外科講座 全 8 巻	添田周吾 他編	メジカルビュー社	1987
参	Plastic surgery 2nd ed. 8vols	Stephen J. Mathes	Saunders Elsevier	2006
参	Grabb's encyclopedia of flaps 3rd ed. 3vols	Berish Strauch 他	Lippincott Williams & Wilkins	2009
推	口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床	高橋庄二郎 著	日本歯科評論社	1996
推	よくわかる子どものための形成外科	中島龍夫編	永井書店	2005
推	手の外科の実際 改訂 7 版	津下健哉 著	南江堂	1985
推	TEXT 形成外科学 2 版	森口隆彦 他編	南山堂	2004

・成績評価方法

本試験に小テスト、出席点などを加えた総合評価。問題の難易度により相対的評価を加える場合がある。

・特記事項・その他

*各講義時間内に、学生各班に課題を担当してもらい、ミニ PBL を行う予定です。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン一式	1	スライド等提示
講義	ポインター	1	スライド等提示
講義	プロジェクター	1	スライド等提示